

講演会にご参加ください

第5回 高梁市文化講演会

デューク更家プロデュース Walking Exercise

ウォーキング エクササイズ

講師

ウォーキングドクター

デューク更家 さん

と き:12月22日(金)

午後6時30分開演(午後6時開場)

ところ:総合文化会館 大ホール

入場料:全席自由500円

※入場整理券は、総合文化会館、労働会館、各地域局、教育委員会高梁分室、市内プレイガイドなどで発売中です。

■問い合わせ

総合文化会館 (TEL ②1040)



人権啓発 講演会

譲れないもの 大切なもの

講師

評論家

樋口恵子 さん

と き:12月8日(金)

午後1時30分開演(午後1時開場)

ところ:総合文化会館 大ホール

入場料:無料

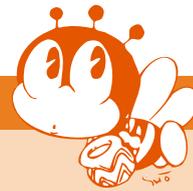
※託児所(乳児を除く)を開設しますので、希望者は12月1日(金)までに社会福祉課児童福祉係 (TEL ②0264) へお申し込みください。

■問い合わせ

社会教育課生涯学習係 (TEL ④9083)



マナビ通信 その①



全国生涯学習フェスティバルのマスケット「マナビ」です。

この催しは、あらゆる世代の人たちが学ぶことの楽しさや大切さを感じることで、学びの輪を広げていく全国規模の参加型イベント。

今月号から、このコーナーで、来年、岡山県で開催される第19回全国生涯学習フェスティバルや市内の生涯学習の取り組みについて紹介していくのでよろしくね。

今回は、フェスティバルの概要についてお知らせします。

フェスティバルの愛称

まなびピア岡山2007

「まなびピア」は、生涯学習の「学び」とユートピア(理想郷)の「ピア」を掛け合わせた造語です。

キャッチフレーズ

晴れの国 キフリ☆輝く
まなびの輪

開催期間

平成19年
11月2日(金)～6日(火)

主会場

岡山県総合グラウンド

○総合開会式(11月2日)

岡山シンフォニーホール

○総合閉会式(11月6日)

倉敷市芸文館

主会場のほか、県下全市町村で、生涯学習に関する体験型イベントや地域の特性を生かした展示・ステージ発表などが行われます。県内全市町村の参加は全国初です。

■問い合わせ 社会教育課
生涯学習係 (TEL ④9083)

第19回 全国生涯学習フェスティバル

まなびピア岡山



留岡幸助 ①

今月号から5回シリーズで、高梁市が生んだ社会福祉家で非行少年の更生に尽力した「留岡幸助」の生涯について、市文化財保護審議会長・児玉享さんに執筆いただきます。



高梁総合福祉センター前の公園に「留岡幸助先生顕彰碑」がある。この碑は近

代日本における社会福祉事業の先駆者として留岡幸助を讃えたもので、高梁の生んだ偉人の生涯を紹介している。

一、少年期の留岡幸助

留岡幸助が生まれたのは明治維新の4年前の元治元（1864）年で、高梁は松山藩の城下町として、備中の中心地として栄えていた。

藩主板倉勝静は江戸幕府の老中としても活躍、その絶大な信頼のもとに山田方谷が藩の財政・人心を立て直し、安定した政治が行われていた。

しかし、江戸幕府が慶応3（1867）年に大政を奉還した後、戊辰戦争が起った。この混乱期に松山藩



は朝敵とみなされて、一時備前藩の支配下におかれた。明治2（1869）年に高梁藩として復活したが

五万石は二万石に減らされ、その後明治4年の廃藩置県によって藩はなくなり、多くの藩士は東京など他地域に職を求めて移転、商人や職人も需要の多い都市部に移るなど激動の時代となっていた。

幸助は高梁の新町の髪床屋（理髪店）をしていた吉田万吉・とめ夫婦の4番目の子供として生まれた。南町で米商人をしていた、親戚の留岡金助・勝夫婦に子供がなかったたので、生まれる前よりの約束で、生まれる

とすぐに養子となった。

留岡夫婦はちようど近くの新丁（現弓之町）に住む士族、国分胤之夫婦に頼み、もらい乳をした。国分家は3月前に子供

三亥（法律家、高梁市初代名誉市民）が生まれたばかりで母乳がよく出るので、幸助にも分け与え、可愛がっていたという。

幸助は8歳から近くの新丁の伊藤という寺子屋に通った。四民平等の時代となって武士の子も町人の子も一緒に学んだが、身分制は依然として意識や生活の上で存続しており、旧藩士の子は木刀を腰にして通学していた。ある日寺子屋帰りに口論となり、木刀でなぐられた。町人の子の幸助は素手であったので、木刀を握っている相手の手をつかんでかみつき、藩士の子は泣きながら帰っていった。

翌日幸助の父は相手の家に呼びつけられ、出入りの差し止めを言われた。有力な得意先を失った父は幸助を激しく叱り、散々にたたいた。幸助は防衛上かみつけただけなのに、これほどの仕打ちをする旧士族に激しい敵意をもつようになった。

まもなく学制が公布され、全国に小学校ができる。彼も小学校に通うようになるが、12歳の時にやめて行商に入り、商人の第一歩を踏み出すことになる。しかし、行商中も背中の籠に漢学の本を入れて休む時は読み、治国平天下を目指したというほど学問好きで、正義感が強く、年に何回か来る軍談や講談が大好きで必ず聴いていたという。

新しい思想に興味関心を持ち、自分が思ったことにつき進む意志の強い子供であった。

（文・児玉 享さん）